

◆アリゾナの Adaptation Futures (国際会議) に参加して◆

Adaptation Futures が 2012 年 5 月 29 日から 31 日にかけてアメリカのアリゾナ州ツーソン市アリゾナ大学で行われました。Adaptation Futures とは気候変動に対して社会がどのような対策が取れるのか討議する国際会議で世界中から参加者が集まりました。アリゾナはメキシコに接し、当地の影響も大きく、メキシコ料理や音楽が街のあちらこちらに溢れていました。開催場所は沙漠にあるだけあって郊外に出るとサボテンが林立する荒野が広がっていました。

ICAS からは三村、安原、田村、Frank、田林の 5 人が参加し、ベトナム・メコンデルタと紅河デルタにおける脆弱性評価研究、東日本大震災からの復興等について発表しました。また、環境省環境研究総合推進費 S8 プロジェクト(温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究, 代表:三村)を中心に企画セッション「科学は地域の適応策にどう貢献できるか」が設定され、学術的な調査結果をいかに現地の人の暮らしに還元できるかをテーマにして話し合いました。会議ではオープンで徹底的な議論が繰り広げられ、例えばベトナムの研究に関しては類似の研究を実施しているアメリカ人研究者とも深く意見交換をすることができました。特に「気候変動に対する脆弱性に関する研究」はどのような世界展開が現時点でされているのか、その中で私達の研究はどの程度の重要性を有するのかを確認できた点は大きく、今後の研究を展開する上でも参考になりました。

気候変動に対する適応策は最近になって研究が盛んになってきている印象を受けます。その中でも、ICAS の研究は統計的なデータを用いた脆弱性の検討と同時に現地において聞き取りや地盤のデータ等を採取しています。統計データと現場の状況を垂直統合した強固なデータセットを整えつつあり、この点において他の研究にはない信頼性、可能性があると確認する事ができました。今後はこの確信をもとに適応研究を推進させていきたいと思えます。



企画セッションの様子

参考 URL: <http://www.adaptation.arizona.edu/adaptation2012>

文責: 田林雄

大学院農学研究科「地域サステナビリティの実践農学教育プログラム」インドネシア・サマールース



2012 年度はボゴール農科大学、ガジャ・マダ大学、ウダヤナ大学の 3 コースに分かれて実施しました。日本人の人数が例年よりも相対的に少なく、“濃い”実習となりました。

参加した皆さんは、研究発表やフィールド実習を通して、これまで学んできた知識と能力を存分に発揮するとともに、「まだまだこれから」と決意を新たにできたようです。今年度も、インドネシアの“豊かな自然”と“活力溢れる人々”に囲まれながら「サステナビリティ」に想いを馳せる、贅沢な時間を過ごせました。



◆大学院タイ演習「国際実践教育演習」の報告

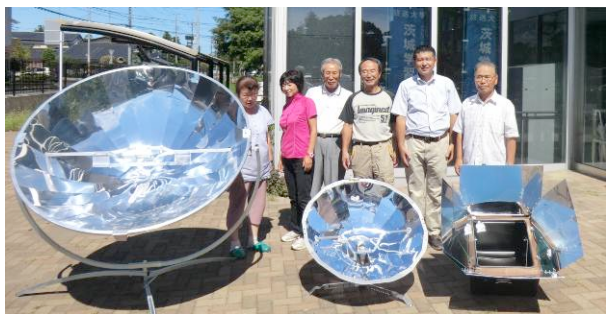


9 月 3 日～11 日までタイのプーケット・マイカオ村にて、今年で 4 回目となる国際実践教育演習が行われました。今回、茨城大学側からは各研究科から合わせて 14 名の院生が参加し、タイのプーケット・ラチャパット大学側の学生と協働で、現地の直面する課題に関してフィールドワークを行いました。今回のテーマは「津波」、「防災」、「省資源農法」、「エコ・ツーリズム」、の 4 つです。過去 3 年間に先輩達が蓄積した情報や経験を生かし、今年度はより具体的な調査と課題への提案を行うことができました。また、帰国後もインターネットを通してタイの学生とのつながりや、日本人院生同士の交流が続いており、今後の展開が楽しみです。



◆ 島田コーディネーターのちょこっとコラム ◆

～ソーラークッカーとソーラードライヤー～



写真： エコ・カレッジ23の皆さんと各種ソーラー調理器具

再生可能エネルギーの利用でといえば、風力や太陽光発電が真っ先に思い浮かびますが、先日読んだ、『再生可能エネルギー先進国インド』（和田由紀子著）によれば、再生可能エネルギーの利用では世界でトップクラスにあるインドでは、電力供給用だけでなく、調理や農村部の現金収入源用として活用されるソーラークッカーや食品乾燥用のソーラードライヤーの普及にも力を入れているようです。写真の大きなソーラークッカー（パラボンのような形状のもの）はインドなどで良く使われている皿型のもので、直径 140cm の面積で晴れていれば約 600W の熱を中心部に置かれた鍋ややかんにあつめることができます。3 リットルの水なら 25分で沸騰させることができます。ポップコーンもポンポンはじけてきます。ソーラークッカーと同じように普及が進められているのがソーラードライヤーです。紅茶、コーヒー、ドライフルーツなどの乾燥に使われ、それらを生産し販売することで現金収入源となっているそうです。

現在、ICAS のある環境リサーチラボには、この大型ソーラークッカーが展示されています。また、ソーラーフードドライヤーの製作も企画中です。晴れた日に、ちょっとソーラークッカーでも体験してみるか～という人は、ぜひ ICAS にお越しください。実生活に活用できる再生可能エネルギーの利用に実際に触れて感じてみて下さい。新しい発見の場になるに違いありません。

◆わたしのベトナム・ハイハウ海岸調査◆

工学部都市システム工学専攻修士2年の Mai Thi Thu Thuy です。私が大学院へ入学した年に、偶然にも大規模なリサーチプロジェクトが、まさに私の故郷であるベトナムを対象に始まりました。三村教授のご指導のもと、Nam Dinh 州の Hai Hau 海岸の浸食について研究しています。

この地域はかつて紅河デルタの堆積地でしたが、20世紀初めから浸食の問題が顕著になり始め、地元の住民の生活に深刻な被害が出ています。研究では、浸食の仕組みと将来の予想をもとに対応策を提言できるように、数値モデルやリモートセンシングの解析技術、フィールド調査などを行っています。私の故郷であるベトナムの問題を解決するための、日本の最先端の沿岸技術を学ぶことができることを光榮に思います。



ハイハウ海岸での現地調査

◆ツバル調査◆

2012年9月18日～10月1日の14日間、横木裕宗教授（工学部）および桑原祐史准教授（広域水圏センター）の2名でツバル国の調査研究を実施しました。島嶼国の国土の維持について研究をしています。現地では、様々な計画を行う際に使用する最新の地図がありません。



このため、我々が参加するプロジェクト (SATREPS, 研究代表者 東京大学茅根創教授) のメンバーが作成している最新の地図の Ver.1 を持参し説明してきました。

写真はそのお披露目の様子です。

広域水圏センター 桑原祐史

2012年度 ICAS カレンダー

4月	H24 年度サステナ教育プログラム履修登録開始	10月	10/10 いばらき自然エネルギーネットワークセミナー 10/29 第2回 ICAS 運営委員会 10/31-11/2 ウダヤナ大学 (バリ島) 科学技術会議シンポジウム
5月	5/11 適応フォーラム 5/16 第1回 ICAS 運営委員会 5/23 国際国内演習ガイダンス 5/25、26 SSC 研究集会 5/29-31 Adaptation Futures (ツーソン、アメリカ)	11月	11/15 S-8 気候変動適応シンポジウム (法政大学) 11/22 日本-ASEAN 大学国際連携教育シンポジウム
6月	6/9,16,23 サステナビリティ学入門	12月	12/5 茨城県3者連携講演会 (水戸) (農) 地域サステナウインターコース (インドネシア学生来日)
7月	7/3 いばらき自然エネルギーネットワークセミナー 7/14-16 サステナ最前線講義	H25年 1月	第3回 ICAS 運営委員会
8月	8/20-22 APN・ICAS 共催アジア太平洋適応支援 WS	2月	
9月	9/3-11 国際実践教育演習 (ブーケット) 9/15-23 インドネシア演習 9/26-28 国内実践教育演習 (霞ヶ浦)	3月	ICAS 研究報告会 学生サステナフォーラム

*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp